

植調協会だより

— 財団法人 日本植物調節剤研究協会 創立四十周年記念行事 —

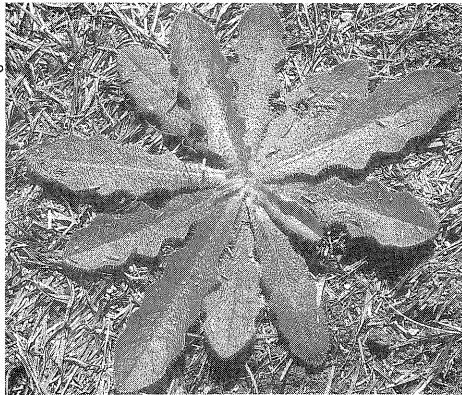
日 時：平成16年12月10日(金)16:00～19:00
場 所：池之端文化センター
東京都台東区池之端1-3
〒110-0008 TEL 03-3822-0151

植物調節剤功労者表彰式：16:00～17:00
懇親会：17:00～19:00

編集後記

猛暑の連続だった今年の夏も、11月の声とともに木枯らしが吹き始めた。農作物の収穫もほぼ終りに近づき農作業も一段落。冬籠りの準備が進められている。古今和歌集に「雪降れば冬籠りせる草も木も」とあるが、科学が進んだ現代では人は冬籠りしても草は冬籠りしないことが分かってきた。

今頃、田畑を歩いて見ると、地面にへばりつくようにして、葉を株元から放射状に広げている雑草の幼植物を多く見ることができる。これをロゼット植物と呼ぶ。ロゼットとはもともとは「バラの花の結び」という組み紐の紋様のことであるが、植物が茎を伸ばさずに株元からバラの花形に葉を放射状に出して、地面に貼りつけて生育するものをロゼット植物と呼んでいる。何故こんな形になるのかというと、これは植物のしたたかな繁殖戦略である。つまり寒さから身を守るためである。茎が立っていると水分や酸素の消費量が多く厳しい寒さで枯れ



▲ブタナのロゼット

てしまう。葉が地面に貼りついていると風や寒さの害を和らげることができるとともに、草食動物の食害からも守れるという利点もある。例えば帰化植物でブタナがあるが、これは「豚が食べる野草」という意味のフランス

語からきたもので、ブタナの葉は地面にぴたりと貼りついたロゼットのため、厚い唇で草をむしり取って食べる牛や馬は食べることができない。したがって牧草地にブタナが残るが豚は鼻を使って掘り起こして食べる性質があるので、牛や馬が食べ残した草(ブタナ)を食べることからこの名がついたといわれる。

植物には厳しい環境を生き抜くために、その植物独特の繁殖戦略が気の遠くなるような長い年月をかけて培われてきた。したたかな繁殖戦略で防備した雑草は冬でも生育する。これをを防除することは容易でないことをあらためて痛感する次第である。⑦

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 (03)3832-4188 (代)
FAX (03)3833-1807

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 (03)3833-1821 (代)
FAX (03)3833-1665
E-mail: hon@zennokyo.co.jp

平成16年11月発行 定価525円(本体500円+消費税25円)
植調第38巻第8号 (送料 270円)

印刷所 新成印刷(有)